



広報 KOGA NO.40

こが 古河

目次

- 2 新春を迎えて —市長年頭あいさつ—
- 4 国民文化祭カメラルポ
- 6 古河市景観計画
- 8 ふるさと古河の風景
- 10 火災の多い季節です
- 11 成年後見制度
- 12 遠きにおいて

1 JANUARY
2009



新年明けまして

おめでとうございます。

年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りしますとともに、日頃から市政へのご支援ご協力に対し、深く感謝を申し上げます。

さて、新生古河市も早や3年4か月、この間4回目のお正月を迎えました。私はいつもこの時期、昨年より今年、そして今年を確かな年にする事で素晴らしい来年を迎えたい、こんな決意で、心新たに1年をスタートさせております。

昨年を振り返りますと、未曾有の金融危機により世界経済が大きく後退し、その余波は日本経済にも大きな打撃を与えております。現在、国において雇用の確保を含めた経済対策が講じられているところですが、一刻も早い経済回復を望みたいと思います。

市政に目を向けますと、依然厳しい地方財政状況の中ではありますが、昨年は、合併以来蒔いてきた小さな種が芽を出しました。これから立派な花を咲かせ、大きな実をつけてくれそうな、そんな期待が膨らむ新しい事業のスタートでした。

交通弱者を大切にしたデマンド交通の試験運行、観光客に優しい古河駅構内観光案内所の本格オープン、どぶろく特区を生かし地域経済の活性化を目指した農業者によるどぶろく製造、茨城県開発公社による企業誘致のための名崎送信所跡地の取得などは、その代表的な事業であります。

私は市長に就任以来、新しいまちづくりを段階的に進めてきました。合併から19年度までの2年半は、新市の草創期として、市民の一体感の醸成と発展の基盤づくりを目標に、内部改革を含めた体制づくりや財政の健全化、市民間の負担とサービスの公平化、自治組織の再編などを主体に取り組んできました。

20年度からはいよいよその素地も整い、発展に向けた新市の建設期として、合併効果が実感できるまちづくりを目標に、市民の安心安全へのニーズに応えながら、新しい事業にも積極的にチャレンジしてきました。

そして、迎えた平成21年。産科小児科医師の確保や校舎耐震化の促進、駅西地区の歴史のまちづくり、道の駅建設、複合的文化施設の建設促進、企業誘致を支える関連道路網の整備など現在の課題はもとより、中高一貫教育校の推進など新しい事業にも取り組んでいきたいと考えております。

経済の先行きがかつてなく不透明な中、地方自治を取り巻く環境は一層厳しさを増しております。こんな時だからこそしっかりと地に足をつけ、民間経営者の経験を生かして堅実な市政運営に努めてまいりますので、皆様の一層のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

古河市長 白戸仲久

迎 春



日光連山

「第23回 国民文化祭」

文化庁や茨城県実行委員会などが主催する国内最大の文化の祭典「第23回国民文化祭・いばらき2008」が11月2日～9日に開催されました。

古河市では「文学散歩道フェスティバル」と題し、歴史文化資源を活用したさまざまなイベントを開催。市内だけではなく市外・県外からも大勢の方々にご来場いただき、誠にありがとうございました。

出演者の皆さん並びにボランティアとして、準備から運営までご協力くださいました方々に心からお礼を申し上げます。

オープニングイベント

11月2日、スペースU古河で、オープニングイベント「1ページの絵本」表彰式と入賞作品の朗読会、基調講演会が開催されました。

「1ページの絵本」～よみがえる絵本黄金時代～

大正11(1922)年、古河出身の鷹見久太郎によって創刊された児童文学の金字塔といえる絵雑誌『コドモノクニ』。それまで、文章の添え物とみなされていた絵画を主役とした芸術性の高いもので、その後雑誌『コドモノテンチ』とともに、童画の世界に黄金時代を築いた絵雑誌として高く評価されています。その『コドモノクニ』『コドモノテンチ』に掲載された3点の挿絵に付ける詩や物語を募集し、合計2,750作品が集まりました。



白戸市長(右)から表彰される一般の部大賞の大磯瑞己さん



「水遊び」 武井武雄 作



「空き地で遊ぶ子どもたち」 木俣 武 作



「森の小鳥」 深澤省三 作



遠藤教育長(右)から表彰される小中学生の部大賞の小林真夕さん



オープニングイベントであいさつをする白戸市長



鷹見本雄さん(『コドモノクニ』研究家)による講演



朗読：声優あおきさやかさん、ピアノ：小川由希子さんによる大賞・準大賞作品の朗読会

「いばらき2008」を開催

文学あんどん祭

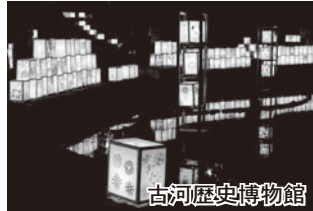
市民が心を込めて書き綴った文芸作品に包まれたあんどんが、街中を彩りました。



古河市公会堂



古河駅西口付近



古河歴史博物館



古河文学館

文学講演会と演劇

11月8日、古河市公会堂で、作家の永井路子さん(古河大使)と佐江衆一さんによる文学対談「歴史小説あれこれ」が開催されました。また、対談の後には、市民演劇「草の民」が公演されました。



佐江衆一さん(左)と永井路子さん(右)による文学対談



市民劇団による「草の民」

国民文化祭記念事業

「二胡と煎茶の会」、「連歌会」、「童謡コンサートと物産展」、「フルートとピアノコンサート」、「和太鼓フェスティバル・火縄銃演武」など



二胡と煎茶の会



童謡コンサート



フルートとピアノコンサート



火縄銃演武



連歌会



物産展



和太鼓フェスティバル

古河市景観計画の 策定作業が始まりました

～活力ある地域社会を目指して～



▲市の玄関口となっている古河駅周辺の景観

現在のまちづくりには、そこで暮らす市民の人はもとより来訪される人々が、まちに魅力と心地よさ、にぎわいと自然の優しさを感じられることが求められています。

古河市でもこのような景観に配慮したまちづくりを進めてきましたが、古河市総合計画で定めた「風格と希望に満ちた“いきいき古河”」を目指すため、市内に点在する貴重な景観資源をさまざまな角度から調査し、さらに良好な景観まちづくりにはどのような方向性や目標が必要か、という基本的な方針を定める古河市景観計画の策定が始まりました。

【問】総和庁舎(本庁)都市整備課 ☎92-3111

良好な景観とは？

最近「景観」という言葉をよく耳にすると思います。景観には、都市景観、街並み景観、農村景観、自然景観などさまざまなものがあります。私たちがこれらの景観を“美しい”と感じるとき、単に一つの山や川、あるいは建物だけを見てそう感じているのではなく、山や川、建物とそれらを取り巻く周囲の状況を併せて見て、全体の風景としてその見事さを美しいと感じているのではないのでしょうか。

このように、何にも遮られずいとも眺めることができるきれいな山や、まちなかに点在する人々の生活の中に息づく趣のある古い建物など、市に住み、働き、訪問する人々がそれぞれに美しい、大

切に守りたい、と感じる美しい景観というものがあるのではないのでしょうか。

景観法とは？

このように、景観の大切さが重要視される中、「良好な景観は国民共有の資産であり、景観形成は地域の個性を伸ばすよう、住民や事業者および行政の協働により進めるべきである」ことなどを基本理念として、平成17年6月に「景観法」が施行されました。

この景観法は、都市や農山漁村などにおける地域の良好な景観の形成を図るために、基本理念や住民、事業者、国などの責務を定めるとともに、景観計画の策定、景観計画区域などにおける良好な景

観の形成のための方針や規制、誘導、支援などの仕組みを位置付けた、我が国で初めての景観についての総合的な法律です。

平成20年10月1日現在、363の自治体が景観法に基づく景観行政団体(地域における景観行政を担う主体)として位置付けられ(県内では、つくば市、守谷市、水戸市、牛久市)、各自治体の特性を生かした、主体的な景観まちづくりの取り組みが進められています。



▲緑豊かな四季の径

古河市の良好な景観を創りあげていくことで

「良好な景観を形成」するためには、市に住み、働き、訪れる人々が、古河らしい景観資源と地域が育み、またこれからも創り育ていくべき自然、歴史、文化などを理解し、その中から価値ある景観を見出し、市民や事業者などの人がそれらを共有していくことが重要です。

自分たちの街の大切な価値が共有されることで、地域に誇りと愛着が生まれ、良好な景観を守っていくことで華やかさやにぎやかさ、あるいは癒しを求めて、多くの人々が訪れることにもつながります。

こうして、多くの人々が集まることで地域も活性化し、新たな経済活動を生み出すきっかけにもなります。

このように良好な景観を形成することは、「活力ある地域社会」を実現するひとつの手法ともなるものです。



▲古い街並みが残る主要地方道結城野田線の沿道風景

古河市景観まちづくり基本方針の策定

こうした背景のもと、市では、「古河市景観計画」を平成20年度から平成22年度にかけて策定することになりました。

この計画は、古河らしい都市景観、自然景観、歴史景観、眺望景観などの景観の価値を明らかにし、それらを、守り、生かし、創っていくことにより、誰もが美しいと感じ、市民の誇りとなる“ふるさと古河の景観づくり”を市民、事業者、行政が力を合わせて進めていくための景観まちづくりの基本方針です。



▲水辺と緑が広がるネーブルパークを取り巻く伸びやかな景観

市民参加で策定します

市の景観は、道路や公園、河川などの公共施設をはじめ、一般の住宅、事業活動が営まれている商業施設や工場、市民が所有する農地や樹林地等の自然環境など、さまざまな要素によって形づくられています。

こうしたことから、古河市らしい良好な景観を守り、生かし、創る

ためには、市民や事業者、行政が連携していくことが欠かせません。

そこで、市民、事業者が参加する場として、公募市民や市民団体などを対象とした市民ワークショップ、学識経験者や市民などにより構成する古河市景観計画策定委員会など、市民参加の手法により計画の策定作業を進めていきます。現在、2,000人の市民にご協力をいただき、市民の景観に関する意見や考え方をお聞きするアンケート調査を実施しています。

今後「市民が選ぶ景観30選」の実施、「景観まちづくりフォーラム」の開催を予定していますので、ぜひご参加、ご応募をお願いします。

これからも広報古河や市公式ホームページなどを通じて、市の景観まちづくりの取り組みの経過をお伝えしていきます。

公募市民・景観30選募集

この広報古河お知らせページ1月1日号3ページでは、市民ワークショップなどに参加していただける「公募市民」および「市民が選ぶ景観30選」を募集していますので、ぜひご参加、ご応募をよろしくお願いいたします。



ふるさと古河の風景

市のホームページに掲載してあります「ふるさと古河の風景」のページをご存じですか？

ここでは皆さんの記憶に残っているような大正から昭和のなつかしい写真を掲載しています。

時の経過とともに移り行く古河のまちなみやひとびと。その一瞬一瞬を刻んでいくたてもものや風景。当時は当たり前になっていた景色を写真で見ると、なつかしいふるさと古河に出会えることができます。

※今回は皆さんからすでに寄せられた写真もあわせて紹介します。

【問】総和庁舎(本庁)広報広聴課 ☎92-3111



①



②

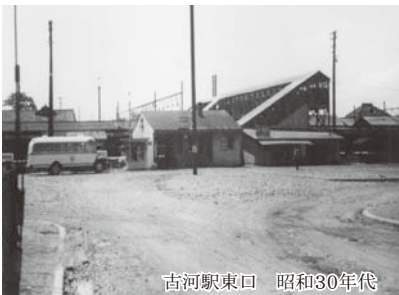
- ①東北本線蒸気機関車 昭和32年
写真所蔵：古河歴史博物館
- ②三国橋開通パレード 昭和43年
写真所蔵：古河歴史博物館
- ③青果市場(静町) 昭和46年
写真提供：新井源一郎氏



③

古河のまちなみ

急速な高度経済成長の波がこの地域にも押し寄せ、市の景観も大きく変わりました。ここではこれからまさに変貌を遂げようとしているありし日の風景を集めてみました。



古河駅東口 昭和30年代

▲鉄道高架以前で、まだロータリーが未整備のころのようす
写真所蔵：古河歴史博物館



十間道路 昭和30年代

▲古河駅の区画整理は、幅18.2メートルの幹線道路とともに事業が始まりました
写真所蔵：古河歴史博物館



横山町(現まこまち柳通り) 昭和40年代

▲日光街道の宿場の面影を残す横山町を、南から北に望む
写真提供：新井源一郎氏



江戸町・石町通り 昭和40年代前半

▲この頃一日約2万台がここを通り抜け、交通問題となった
写真所蔵：古河歴史博物館



街路灯設置後の諸川商店街 昭和41年頃

▲日光東街道の宿場、諸川のようす
写真所蔵：三和資料館

古河のたてもの

現在は姿を消してしまったなつかしい建物を集めてみました。この中には現在まで残されていれば、貴重な文化財になったであろうと思われるものもあります。しかし、今となっては写真を通してしか見ることができません。



圓協本陣太閤屋 昭和6年

▲江戸時代には、大名なども利用する協本陣でありました

写真所蔵：古河歴史博物館



旧幸島銀行社屋

▲幸島銀行は、明治31年11月三和地区の旧幸島村域の名望家の出資によって設立

写真所蔵：三和資料館



古河男子尋常高等小学校校舎 大正中頃

▲現在の古河第二小学校。明治43年(1910)に新築された校舎

写真所蔵：古河歴史博物館



総和中学校旧校舎 昭和53年

▲今や思い出となる校舎も脇に植えられたカイヅカイブキ(貝塚伊吹)の樹がまだ小さい

写真提供：中根功氏

古河のひとびと・にぎわい

それまでの伝統的な行事とともに、新たな催し物や行事が生まれます。この中にも現在ではまったく行われなくなってしまったものや、姿を変えながらも続いているものもあります。



夏祭りの屋台 昭和初期

▲江戸時代から続いて行われている雀神社の夏祭りの一コマ。立派な屋台が見えます

写真所蔵：古河歴史博物館



こさき伐り 昭和36年

▲江口地区の地域住民総出で実施されたこさき伐りのようす

写真所蔵：三和資料館



名崎小児童登校風景 昭和41年

▲名崎小学校の校門前で手を挙げて道路を横断する児童たちのようす

写真所蔵：三和資料館



交通安全教室 昭和40年頃

▲昭和40年代、交通戦争と呼ばれる時代を迎え、交通安全教室が実施される

写真所蔵：広報広聴課

古河のあきない・つくる

伝統的な方法で作られ、販売されてきたもの。また、当時の様子から今につながることを垣間見ることがもできます。



柳行李の製造販売 昭和10年

▲明治45年開業の柳行李製作販売店は当時年間1,800個ほど生産していた

写真所蔵：古河歴史博物館



申楽町二丁目にあった生魚市場 昭和10年

▲昭和6年に開設された茨城県公認の海産物市場

写真所蔵：古河歴史博物館



歳末風景 昭和40年代

▲古河の街では、今も見ることが出来る風景

写真所蔵：古河歴史博物館

なつかしい古河の写真を募集!

ご自宅に掲載可能な写真がありましたら提供をお願いします。
 ※応募の際には、写真の権利
 【所有権(所有している人の権利)】
 【著作権(撮影した人の権利)】
 【肖像権(写っている人の権利)】
 等の確認をさせていただきます。
 詳細は問い合わせください。

空気が乾燥し、 火災が発生しやすい 季節です



—火の取り扱いには十分注意しましょう—

日ごろから火の用心

- ・ 暖房器具や調理器具の周りには燃えやすい物を置かないようにしましょう。
 - ・ 家電製品のコンセントは定期的な清掃を心掛けましょう。また、タコ足配線は絶対にやめましょう。
 - ・ 消火器は常に見えるところに置き、定期的の使用期限と使用方法を確認しましょう。
 - ・ 灰皿に吸殻をためないようにしましょう。また、枕元に灰皿を置かないようにしましょう。
 - ・ 屋外での火の取り扱いには気をつけましょう。
- ※屋外での焼却は、消防署への届出が必要です。

枯れ草の火災が発生しています

空気が乾燥するこの時期、タバコの投げ捨てなどにより、枯れ草火災が発生しやすくなります。

枯れ草火災による、住宅などへの延焼を防ぐため、住宅などに隣接している土地に枯れ草が茂っている場合には、早めに枯れ草を刈り取るようお願いします。

暖房器具のリコールは早めに対応しましょう

リコール対象製品になっているもので、修理を受けないまま使い続けていると事故や火災の原因となる場合があります。各メーカーに問い合わせる早めの対応を心掛けましょう。

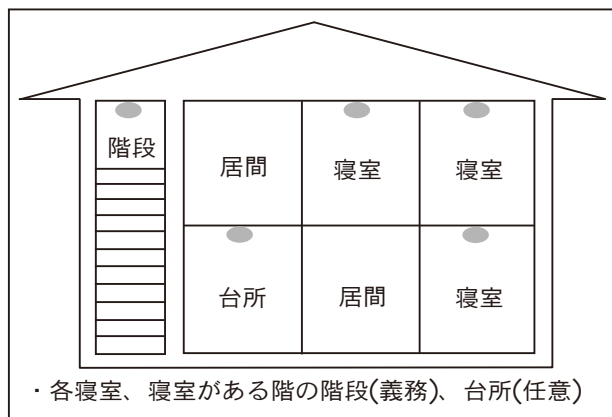
自分の生命・財産を守るために… 住宅用火災警報器の設置について

火災を早期に見出し、被害を最小限に抑えるために住宅用火災警報器を寝室や階段などに設置しましょう。新築住宅は、平成18年6月1日から、既存住宅は、平成23年5月31日までに設置が必要です。設置する警報器の種類は、煙式のものとなります。詳しくは、最寄りの消防署にお問い合わせください。

※消防署では訪問販売を行うことはありません。悪質な訪問販売などには十分注意してください。



▼設置例



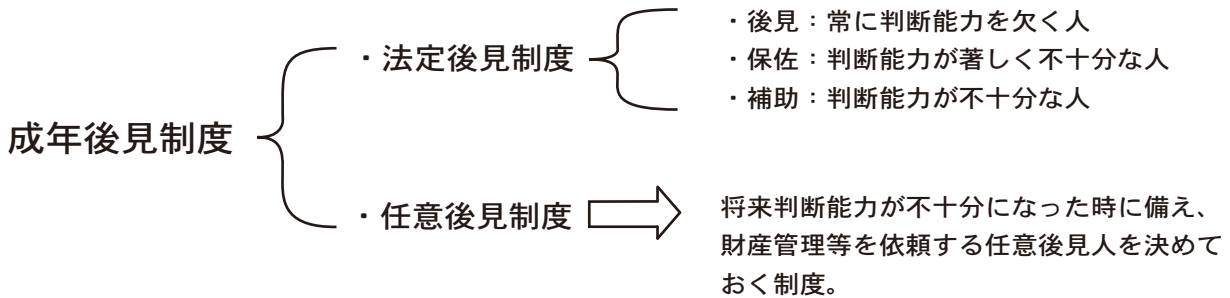
○古河市では、火災や災害時の活動をする消防団員を随時募集しています。

問 総和庁舎 消防防災課 ☎92-3111

成年後見制度ってな～に？

認知症等がある人の権利擁護や悪徳商法から身を守る制度として、成年後見制度の必要性は昨今ますます高まっています。成年後見制度は、法定後見制度と任意後見制度の2種類があります。

【問】 総和福祉センター「健康の駅」内 地域包括支援センター ☎92-5920



成年後見制度とは？

成年後見制度は、認知症・知的障害・精神障害などで判断能力が低下している人のために、援助してくれる人を家庭裁判所に選んでもらう制度です。これにより自分一人では困難な財産の管理等が安全に行えるようになります。

利用すると戸籍に載ってしまいますか？

以前の禁治産制度ではその旨が戸籍に載っていましたが成年後見制度ではその旨が戸籍に載ることはありません。その代わりに東京法務局に登録されて本人や成年後見人などから請求があれば登記事項証明書が発行されます。

期間と費用はどのくらいかかりますか？

期間と費用は事例により異なりますが一般的には期間は3カ月～6カ月、費用は、切手・印紙代で5,000円～1万円です。ただし、鑑定を要する場合や申し立てを弁護士・司法書士に依頼する場合は、別途費用がかかります。

1. 法定後見制度

法定後見制度は、判断能力の不十分な状態にある本人について、本人や家族などの申し立てにより家庭裁判所が適任と認めるもの(弁護士、司法書士、社会福祉士、親族等)を成年後見人等に選任する制度です。住所が古河市の人は水戸家庭裁判所下妻支部に申し立てをします。身寄りがない人などで本人の福祉のために特に必要とされる場合は、市長が申し立てをする場合もあります。従来の禁治産・準禁治産制度では宣告がなされると戸籍に記載されていましたが、成年後見制度ではこれを廃止し、「登記」が用いられることになりました。

2. 任意後見制度

任意後見制度は、本人の判断能力が十分なうちに、将来本人の判断能力が低下したときに備えて、あらかじめ本人が選んだ代理人(任意後見人)に自分の生活、療養看護や財産管理等に関する事務について代理権を与える契約(任意後見契約)を公証役場で公正証書によって結んでおく制度です。古河市近隣では、下館公証役場、小山公証役場があります。





▶Northwest Ohioチームの仲間とMidwest大会に出場した息子(後列左から2番目)



仕事の関係で日本を離れ7年が経った。4年間暮らしたカリフォルニアは一年中温暖な気候に加え、日本食材も近くで入手でき暮らし易かった。反面、今住んでいるオハイオでは日本食材を調達するのに200キロも離れたミシガン州まで足を運ぶ。夏は蒸暑く、冬にはマイナス20度くらいまで気温が下がる。家の暖房が故障した時には夜中に近くのホテルに移動した程である。広い農場、近所で見かける多くの野生動物、冬景色などアメリカの雄大さをイメージさせるこのオハイオにも少しずつ慣れ、愛着を感じはじめているこの頃である。

故郷の思い出と言えば子供たち3人がお世話になった諸川小学校のこと。運動会や諸小祭りなどみんなで盛り上がり、本当に楽しませて頂いた。また娘たちはバレーボールに熱中し、私と妻は応援や運転のため泊りがけの遠征にも出かけたものだった。大きな声で応援し父兄たちの一体感もでき、楽しい時を過ごした。こちらでは息子がハイスクールのテニスクラブに入り練習に試合に励み、また楽しませて貰っている。子供のスポーツを通して知り合いが増え、楽しめるのは日米共通のようだ。

この一年で日本に住んでいる娘たちが相次いで結婚、当初は寂しい気持ちでいっぱいであったが、しっかりした娘婿たちにも恵まれ、幸せな家庭を築いているので安心である。妻はよく娘たちと電話で話しをするので、彼女たちの身近で起きた出来事も日本に居た時の様によく分かる。私も母と電話でよく話す、娘夫婦たちとの買い物や食事に行



行った時の楽しかったこと、私の姉の家族の様子を何度も繰り返す。またもうすぐ誕生する曾孫が、年老いた母の元気の源になっているのも確かだ。遠くアメリカに住み家族のありがたみを改めて実感し、家族みんなのお陰で安心して仕事が出来ているのだと感謝している。

アメリカ・オハイオ州在住 大嶋敏男さん(右から2番目)
ナイアガラの滝(長女が来た2007年の夏)

叙勲・褒章・大臣表彰を受賞

秋の叙勲・褒章

瑞宝小綬章



内藤勝義さん
(77歳、女沼)
元陸自施補処副処長

瑞宝双光章



千野欣重さん
(73歳、下大野)
保護司

瑞宝単光章



日毛哲夫さん
(80歳、常盤町)
元国鉄駅長

黄綬褒章



潮 幸治さん
(82歳、錦町)
えびす屋代表

藍綬褒章



関口良助さん
(73歳、関戸)
元防犯協会分会長

危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章



立木喜美雄さん
(61歳、上辺見)
元2等陸尉

瑞宝双光章



道庭長治さん
(61歳、駒込)
元1等陸尉

瑞宝単光章



黒木正男さん
(65歳、尾崎)
元東京消防庁消防司令補

大臣表彰

地方教育行政功労者 文部大臣表彰



松沼 健さん
(73歳、尾崎)
古河市教育委員

優良PTA・PTA活動振興 功労者文部科学大臣表彰



堤千賀子さん
(47歳、久能)
古河市教育委員

法務大臣表彰



鈴木桂一郎さん
(72歳、谷貝)
保護司

法務大臣表彰



鈴木 隆さん
(59歳、仁連)
保護司

茨城県各種表彰 全国大会・関東大会で活躍

茨城県各種表彰

○茨城県表彰

- ・篠崎元一さん(88歳、横山町)
元茨城県商工会議所連合会
副会長
- ・関根村夫さん(81歳、諸川)
茨城県弓道連盟副会長
- ・けやきの会
- ・古河市工業会

○まちづくりグリーンリボン賞

古河市観光協会

○地域づくり奨励賞

な はな
名の崎会

茨城県中学校新人大会

○三和中学校男子柔道部

○総和中学校男子剣道部

10月28日にカシマスポーツセンターで行われた茨城県中学校新人大会「男子柔道」で三和中学校柔道部が団体戦で優勝しました。

また、10月30日に茨城県武道館で行われた「男子剣道」で総和中学校剣道部が団体戦で優勝しました。

全日本エアロビック選手権大会東日本大会 田中樹利亜さん

11月15日に東京都東京体育館で行われた第25回全日本エアロビック選手権大会東日本大会「シングル部門」に田中樹利亜さん(総和南中・2年)が出場しました。

全日本小・中学生女子 個人選抜剣道錬成大会

藤本沙希さん

10月12日に富山県富山市総合体育館で行われた第26回全日本小・中学生女子個人選抜剣道錬成大会に藤本沙希さん(総和剣道クラブ・総和中3年)が出場。「中学生女子の部」で見事、3位に入賞しました。



藤本沙希さん

利根川の美しい自然 環境をみんなで守ろう

11月8日、「利根川クリーン作戦」が行われました。これは、利根川堤防や磯川周辺のごみを拾う清掃活動です。

当日は早朝から、地元企業や行政区、高校生ボランティアなど298人が参加。堤防周辺(延長5キロメートル)を4班に分かれてごみを拾い、約2時間で清掃は終了。2トントラック2台分、重さにして800キログラムのごみが集まりました。

皆さんの協力で利根川周辺がとてきれいになりました。



▲落ちているごみの中で特に目立ったのが、空き缶と紙くずでした

新たな発見！ 不思議な体験！

11月8日、広域中央運動公園総合体育館を会場として、第11回青少年のための科学の祭典古河大会が行われました。

この大会は、毎年全国各地で開催されている「科学のお祭り」です。科学を楽しみ、親しんでもらい、科学に興味と関心をもってもらうことをねらいとして開催されています。

会場内外には、小中学校・高校・大学や企業、さらには街の科学者たちが出展した55のブースが設けられ、来場した約8,000人に科学の楽しさを伝えていました。

この科学の体験は、子どもたちだけではなく、大人も十分に楽しんだイベントで、とても貴重な体験となったようです。



▲子どもたちの手作りロケットの打ち上げが成功すると歓声があがりました

古河の秋を彩った「古河菊まつり」

古河の秋を彩る「第3回古河菊まつり」が10月27日～11月23日まで、ネーブルパークふれあい広場の特設会場で行われました。

市内外の菊愛好家約40人が丹精込めて育てた約1,250鉢の豪華な菊を展示し(県内有数の規模)、色とりどりの菊が所狭しと咲きほこる「総合花壇」のほか、富士山、扇、五重塔などの姿を表現した作品も楽しめました。

また、期間中の土・日・祝日には「菊むすめ」が来場者を出迎え、まつりに花を添えていました。



▲一番咲いている時期に見ようと、何度も訪れる人もいました

差別と偏見のない社会に向けて

12月4日、古河出身のハンセン病元患者、平沢保治さんが、東村山市の療養所に入所以来、約70年ぶりに本名で古河市に帰郷しました。

人権週間の初日となったこの日、平沢さんは市長を表敬訪問。市長は「これまで大変なご苦勞をなさったと伺っています。おかえりなさい。」とあいさつし、握手で迎えました。

その後、平沢さんは母校の古河第二小学校を訪れ、5・6年生の児童を前に人権の大切さについて講演。その体験談に、参加した児童は真剣に聞き入り、人権の尊さについて考えました。



▲平沢さんの帰郷を歓迎しました

夜空を熱気で包んだ「提灯竿もみまつり」

12月6日、関東の奇祭として知られる「古河提灯竿もみまつり」が、よこまち柳通りの会場で盛大に開催されました。この祭りは、それぞれ趣向を凝らした提灯を約20メートルの竹竿に取り付け、30人ほどで互いの提灯の火を消そうとして激しくもみ合う、荒々しい祭りです。別名「おかえり」とも呼ばれています。

参加したのは、一般の部が16団体、子どもの部が12団体。この伝統の祭りを見ようと訪れた人の数は約5万人。遠方からの観客も多く見られました。



▲矢来の中で激しくもみ合う人たち

きれいに咲いた「市章」

久能行政区では、数年前から環境美化運動に取り組んでおり、このほど県より「花いっぱい運動定着化推進事業」に認定されました。

昨年の夏には、久能コミュニティセンターに隣接する土地に、住民の協力のもと、サルビア・マリーゴールドなどの花を植え、見事に古河市の「市章」の花を咲かせました。



▲みんなが一緒になって、きれいな花を咲かせました



▲激しく竿をもみ合う光景は圧巻です

My Hobby

Wind Run ～風のように走る～ 栗原利助さん(桜町)

近年はマラソン・ブームと言われていますが、「マラソン」この言葉を聞いて皆さんは、まずどのように思われるでしょうか？「孤独」、「苦しい」、「自分には走れっこない」……。今回は、前向きな気持ちでマラソンを楽しんでいる栗原さんにお話を伺いました。

元気はつらつ

栗原さんの“マラソン”歴は、約30年になり、知人に勧められて始めたのがきっかけです。「普段走らない人にとって、マラソンは苦しいの一言で片付けられてしまいますが、どんなスポーツでも最初は苦しいはず。目標に向かって練習を重ねることにより、それがいつしか楽しさ・充実感・快感に変わっていきますよ。わたしの家は土手の近くにあり、自然に触れ合い、季節感を感じながらトレーニングしています。」と月に約230キロメートルも走っている栗原さんは、なんと今年で66歳。

▶ハワイのホノルルマラソンを3回も完走した栗原さん



▲自然を感じながら走って、エンジョイしています

ランニングの利点

「何と言っても、日々の生活の中で疲れにくくなり、体力増加で若さを維持できることです。中高年になるとお腹がぼっこりしてきて、今流行っている“メタボ”(メタボリックシンドローム)と呼ばれる人が多くなっていますが、その予防にもなりますよ。」また、「ランニングをすると汗をかき、肌つやも良くなって(新陳代謝もよくなる)太りにくくなるので、若さを保つことができます！」

自分なりの目標を

「やはり目標があるのと無いのでは俄然やる気が違ってくるので、年6回の市民マラソンに参加することを目標にしています。」その中でも今までに、市民マラソン大会(草分け的存在)の東京都青梅マラソンは、栗原さんが初めて参加した思い出の大会なので、20回以上も参加しているそうです(来月開催される青梅マラソンで自己ベストを更新することが目標)。そして、「何と言っても、大会を通して出会った人とのつながりがわたしの財産です。少しでもマラソンに興味のある人は、2年前に仲間たちと立ち上げた【古河渡良瀬Running Club】で一緒に走ってみませんか？ ☎22-6363」と元気いっばいに話してくれました。

パークライフ 《 見に来ませんか！ 御所沼の水質改善作戦(第二弾)》

かつて御所沼は、渡良瀬川とつながっていました。戦後埋め立てられましたが、現在は一部が復元され、ふたたび私たちにその歴史的景観を見せてくれます。しかし、以前とは違い、閉じられた水域となっていること、また、調整池も兼ねていることによる都市排水の流入もあり、水質の維持が難しくなっています。常時公園の外に排水をしていますが、水を汚す原因となる養分がたまりやすいのが現状です。

そこで通常は、梅雨の前に水位を下げて新鮮な雨水を入れたり、せせらぎで沼の水を循環させたりして水質の維持をしています。

また、平成17年度には御所沼の干し上げをし、その結果一年間は清流並の水質でしたが、この方法はコストと労力がかかり、頻繁に使える手法ではありません。

そこで今回は干し上げをせずに、常設のポンプで水位を70センチメートル程下げる作戦です(1月4日より実施予定)。まずは、管理棟前から平成19年度



▲きれいになったら何して遊ぼう？
(気球より撮影)

に設置した井戸で注水しながら、ポンプ(筑波観の丘の裏)で排水します。2週間ほど低水位を維持し、底の泥に日光(紫外線)を当てると共に、酸素を取り込みやすくすることで、気性バクテリアの増殖を促します。その後、井戸水を注水して水位を戻します。

この方法は、低コストで労力も少なくすむので、毎冬実施できる方法なのですが……成果に期待がかかります。

低水位の間は、蛇籠や布団籠といった水辺の護岸の工夫が観察できます。また、一部で沼底が現れますので普段は見ることのできない二枚貝(タイリクバラタナゴが産卵する貝)が見られるかもしれませんよ。

【問】古河総合公園管理棟 ☎ 47-1129 FAX 48-5685
●Eメール sougou-park@koga-kousya.or.jp
●ホームページ <http://www.koga-kousya.or.jp/koga-park/index.html>

文化財の窓 手紙

御遊説被下度御願申上候
らしヲ配布致シ呉レ
頓首々々々

有之候へハ貴君ヨリ
中田、鶴見ニテモ御席
若シ柳橋内田ニテモ葛生
吟御出句相成り度申上候
閑暇之節頗ルノ御銘
キ二三葉差上候間御
散シ配布相成り候ニ付
度鈴木氏ノ催サレシ
ソヤモ申上候へこと出候
拜啓仕候何日
つかまつりそうらういつ
もつしあげそうら
だしそうらへ

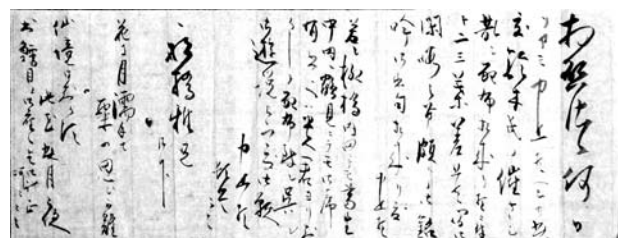
船橋雅兄 几下
花に月濡手で粟の思ひかな
仙境はちらす此花此月夜
出鱈目ニ御座候乞御訂正
呵々々々々

明治26(1893)年の手紙です。雰囲気を感じていただくため原態のまま掲載しました。内容は習々庵富井(俳号)の喜寿(77歳)を記念した、俳句の句合わせのチラシ(広告)配布の添書で、すばらしい俳句(御銘吟)を投句して欲しい旨、友人にも宣伝(御遊説)して欲しい旨などが記されています。ここまではごく普通の依頼状ですが、最後にこの差出人と受取人の関係がよくわかる文面になります。すなわち俳句を2句掲げ、「デタラメに作ったので訂正してくれ、カカカカ」と高笑いしています。両者は気が置けない友人であったことがわかります。

三和資料館では今月24日(土)から3月8日(日)まで、「心から心へ～さまざまな手紙」と題した館

蔵資料展を開催いたします。携帯メールも結構ですが、たまには肉筆の手紙もいかがでしょう。とは言うものの、かく言うわたしも近年手紙を書いたことがないので。

(三和資料館)



▲チラシ配布添書

古河歴史博物館

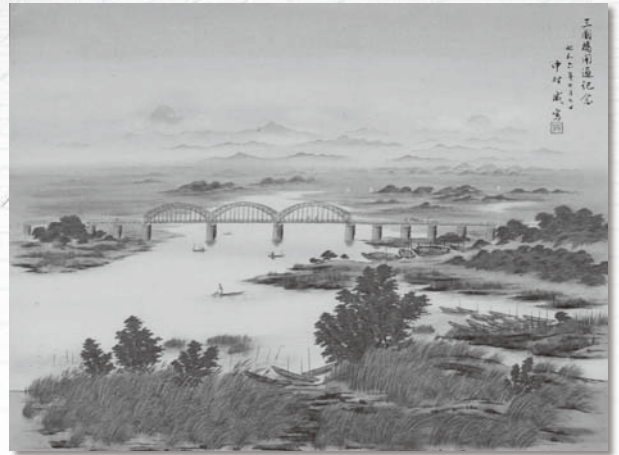
新春の企画展「収蔵品展」 出品作品を紹介します！

遠く山々をのぞむ夏の渡良瀬風景。画面のほぼ中央、地平線がかすんでゆく広々とした景色のなかに、美しい三連アーチ型の橋が架かっています。この風情ある鉄橋は、昭和6年、それまでの私営の船橋を廃止し、公営の橋として架橋された往年の三国橋です。現在三国橋として利用されている白っぽい色のトラス橋は、この橋の老朽化にともない昭和43年に架け替えられたものです。

網漁や魚釣りの小舟が浮かぶ渡良瀬川。そのゆったりとした流れの上に渡された、やさしい曲線を描く三国橋。徒歩で、また荷馬車をひいてゆっくり橋を行き交う人びとの姿からは、昭和初期のどかで穏やかな川辺の暮らしが伝わってきます。

本図は古河生まれの日本画家・中村威^{たけし}(1898～1989)が三国橋の開通記念として描いた作品で、古河町の依頼で同構図のものが十幅制作されました。ここに紹介したのはそのなかの一幅で、平成12年に市内の佐藤家より当館へ寄贈いただきました。

古河歴史博物館では新春の企画展として「収蔵品展」を開催、博物館にご寄贈いただいた貴重な資料の数々を紹介いたします。



▲中村威筆「三国橋図」 1931年／絹本着色／掛け軸

会 期 1月6日(火)～2月26日(木)

開館時間 午前9時～午後5時

※入館は午後4時30分前まで。

【問】古河歴史博物館 ☎ 22-5211

図書館おすすめの図書

◇一般書

・ガリレオの苦悩

東野 圭吾 著



科学を殺人の道具に使う人間は許さない、絶対に……。『悪魔の手』と名乗る者から、警察と湯川に挑戦状が届く。事故に見せかけて殺人を犯す彼に、天才科学者・湯川が立ち向かう。5作品を収録した「ガリレオ」論理の短編。

出版社…文藝春秋 分類…Fヒ

◇児童書

・へんしん! たまごにいちゃん

あきやま ただし作・絵



もうたまごから出ていないといけけないのに、ずっとたまごのままのたまごにいちゃん。でも、かぶとむしと相撲をとって勝ったり、弟たちを3人乗っけるのに大成功したり、どんどん変身しているのです。そしてある日……。

出版社…鈴木出版 分類…Eへ

健康情報局

お酒の飲みすぎは百厄の長！

新年会などお酒を飲む機会が多くなる季節です。お酒は人とのコミュニケーションを円滑にし、ストレス発散などに効果があります。しかし、飲みすぎや連日の飲酒習慣は、アルコール分やエネルギーのとりすぎによって、体にさまざまな害を及ぼします。お酒は適量を守って楽しく飲みましょう。

お酒は「適量」を守って飲んで百薬の長

アルコールの約30%は胃から、残りは小腸から吸収され、ほとんどが肝臓に運ばれ分解されます。日本酒1合を肝臓で分解するには、約3～4時間かかります。大量飲酒はそれだけで肝臓に負担を与えているのです。また、高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病を引き起こす原因にもなるのです。

適量さえ守ればお酒は血液循環をよくしたり、ストレス解消になったりとよい効果が得られますが、適量を超えると害のほうが大きくなるのです。だからこそ適量と休肝日が大切なのです。

主なお酒の適量の目安は……

- ビール 中ビン1本(500ミリリットル)
- 日本酒 1合(180ミリリットル)
- 焼酎 25度(100ミリリットル)

○ワイン グラス2杯弱(200ミリリットル)

○ウイスキー ダブル1杯(60ミリリットル)

※これらのいずれか1つ分です。

お酒の上手な飲み方は……

- ①自分のペースで、時間をかけてゆっくり飲みましょう。
- ②食事をしながら飲みましょう。空腹で飲むと血中アルコール濃度が急激に上昇します。
- ③夜12時以降は飲まない。翌日にお酒を残さず、睡眠時間を確保することも大切です。
- ④週に2回は飲まない日をつくりましょう。

おつまみにも気を配ろう！

お酒には食欲を増進させる作用があり、おつまみを食べ過ぎてしまう傾向があります。メタボリックシンドロームを招かないよう、おつまみは低エネルギー、低脂肪の食材を選びましょう。

とりたいおつまみの例は……

冷奴・海藻サラダ・刺身・枝豆・野菜やいもの煮物など

(健康推進課)



表紙写真

新年明けましておめでとうございます。古河市も合併してから3年4カ月が経ち、「広報古河」もNo.40の発行となりました。今年も行政情報や市内のさまざまな情報を、市民の皆さんへ分かりやすくお伝えするために努力していきますのでよろしくお祈りいたします。

今年も市民の皆さんにとって、健康で喜びと幸せに満ちた一年となりますことを心からお祈りします。

(編集部一同)

表紙の写真は、古河市にのぼる朝日が利根川に写るようすを昨年元旦に撮影した写真です。

寄付

松井洋子さん・杉山泰夫さん(東京都練馬区)より、篆刻美術館展示資料の寄付。

平沢保治さん(東京都東村山市)より、児童人権教育のために図書600冊の寄付。

人口と世帯

| | |
|--------------------|---------------|
| (12月1日現在 住民基本台帳から) | |
| 総人口 | 145,742人(+17) |
| 男 | 73,150人 |
| 女 | 72,592人 |
| 世帯数 | 53,481世帯(+51) |
| | ()内は前月比 |

みぞれ雑煮 <お正月料理>



エネルギー=375kcal
カルシウム=43mg
塩分=2.1g

材料(5人分)

お餅10個(1個50g)、大根1/2本、豚ばら肉100g、長ねぎ1本、卵1個、だし汁800cc、塩小さじ1/2、しょうゆ大さじ2.5、みりん大さじ2、酒大さじ1、三つ葉少々

作り方

①大根をすりおろし、長ねぎは小口切りにする。豚肉は食べやすい大きさに切り、下茹でする。②沸騰しただし汁に豚肉を入れ塩、しょうゆ、みりん、酒を加える。③②に大根おろし、長ねぎを加える。大根おろしにより味が薄くなることがあるので、味をみて塩・またはしょうゆで味を調える。④③が沸騰したら、溶き卵を流し入れる。⑤焼いたお餅を④に入れ少し煮たら、器に盛り付け、刻んだ三つ葉を飾る。

(食生活改善推進協議会)

アイドル登場

「お姉ちゃん ありがとう」

加藤 咲ちゃん・瑛太くん
(3歳9カ月・1歳4カ月 東山田)



幼稚園に通い始めてから、すっかりお姉ちゃんになってきた咲。弟の瑛太の面倒も良く見てくれます。一緒に遊んでくれたり、オムツ交換も手伝ってくれます。

咲のおかげで毎日すごく助かっています。いつまでも仲良しな兄弟でいてね。

(父：順さん・母：千鶴さん)

古河風土記

机の上の星座

〜古河の正月行事から〜

もう13年前のことですが、諸川のKさんのお宅で、正月のしつらえを拝見させていただいたところ、神棚の手前のテーブルの上には、大きなお供え餅のほか、まるでこれを守るかのように、6組のちよつと小ぶりなお供えが囲んでいました。ミカンをのせた大きな大きなお供え餅は、この神棚にまつている太神宮様にあげたものだといふ。そして小さなお供えという、オムツラサマだと。オムツラ……？。一風



▲オムツラサマと太神宮様のお供え(諸川・平成8年)

変わつたこの名前のお供え餅は、少々かたちは違うがほかの家でも見せていただいたことがある。恩名丸山のNさんの家では、一枚の半紙の上に、小さな丸餅が3つずつ2列整列していた。当時、明治40(1907)年生まれのおばあさんにかがうと、オムツラサマというのは星の神様なのだ教えてくれました。そういえば諸川のNさんの家に伝わる、江戸時代末の資料に「六星 おむつらの事小餅六ツ」とあった。やっぱり六つの餅は六つの星なんだ。それでは、六つの星とはなんだろうか、てなことになる。

日本の星の方言を調べてみると、関東から東北にかけてオムツラの星といえば、清少納言も一押し「星はずば

る」(『枕草子』第三三五段だといえます。そう、おうし座の一角をなす昴(プレアデス星団)のことです。歌ではありませぬ。その昴をよく見ると、6〜7つの星のかたまりであることがわかります。「すばる」という言葉は、そんな群れとなつているようすをさすのだそうです。オムツラサマのお供えもそんな昴の星団にならつてなされたのでしょうか。もしかしたら、天文学・暦・時刻・占いに通じる陰陽師などの民間宗教者の関与もあつたかもしれません。

ところで、みなさんも知っている浦島太郎。奈良時代に成立した最も古い話には、竜宮城をたずねる場面がありません。主人公は亀を助けることもなく、亀姫に見初められることもなく、仙人が住む理想郷だといふ蓬莱山へ行ってしまふ。そこでうっかり三百年も過ごしてしまつたというのが話の筋。蓬莱山から帰ってきた主人公のてんまつはご存知のとおり。その蓬莱山で7人の子どもが主人公を出迎えます。その物語のなかでその子たちは昴星だといふので、昴はこのように古くから日本人の感覚になじんだ天体であつたようです。

ともあれ、夜遊びがすぎて「いったい今までどこで何をしていたの」と問い詰められたら、「蓬莱山でうっかり……」といつたほうがよいでしょうか。それとも「昴がきれいだったんで……」。ただしこの言い訳、晴天以外にはつかえませぬ。

古河歴史博物館学芸員 立石尚之

平成21年1月1日発行 ●発行所/〒306100291 茨城県古河市中野2248 古河市役所 ☎0280-3111 ●編集/広報広聴課 ●ホームページ/ http://www.city.furukawa.lg.jp/